

技能検定を想定して身に付けた技を競う「校内技能競技大会」を開催しました

令和4年1月21日(金)に校内行事の一環として第17回校内技能競技大会を開催しました。校内技能競技大会には訓練生全員が参加し、木造建築科1年生は2級技能検定(大工工事作業 - 建築大工職種)の課題である「柱建て四方転び」、2年生は1級技能検定(大工工事作業 - 建築大工職種)の課題である「振れ隅木小屋組み」の課題に取り組み、クラスナンバーワンを目指してそれぞれの学年で建築技能を競いました。



昨年の4月に入校した1年生は、入校から今日までの10ヵ月間で身に付けた技能を試すひとつの大きな節目となる大会です。今後2年生になると、科の代表が青森県代表として参加する「若年者ものづくり競技大会」などの各種競技大会に向けてのスタートとなる校内選考の大会でもあります。



- 働く前の若者たちが技能を競う競技大会 -

若者のものづくりへの関心や技能に対する意識が高まり、若者が一人前の技能労働者に成長するためには、技能の習得に向けた努力目標となる場の存在、技能を競う競技大会が必要です。こうした背景から、職業能力開発施設や工業高等学校等において技能を習得中の企業等に就業していない20歳以下の若者を対象にした技能競技大会を開催し、技能の向上を通じてそれぞれの就業促進を図るとともに、若年技能者の裾野の拡大を目指しています。

今年度は、令和3年8月に愛媛県にて第16回若年者ものづくり競技大会が開催され、全国から約450人の選手が参加し、15職種の技能競技が繰り広げられました。当校からは木造建築科2年の平井叶夢君が同大会に青森県選手団の一員として参加しました。



参加した訓練生は図面を見ながら木材にカンナを掛けたり墨付けを行ったり、ノミやノコを使って切削加工に挑み、制限時間内に完成させて提出できるよう、時計を見ながら作業をしていました。審査は同校の元指導員である坂本昭義氏が審査員となり、出来上がった作品のひとつひとつを確認しながら寸法の正確さや仕上げの美しさなどを採点しました。



今回の校内技能競技大会の開催にご協力いただいた関係者の皆様には心から感謝いたします。また、選手として競技された訓練生の皆さんたいへんお疲れ様でした。競技会場で各課題に取り組んでいただきましたが、日頃の訓練成果を十分発揮することができたでしょうか？また、成績発表・表彰が行われた閉会式では受賞を喜ぶ選手の笑顔がとても印象的でした。残念ながら入賞できなかった1年生の訓練生のみなさんは、今回の大会を糧に来月2月10日(木)に実施される2級建築大工技能検定試験に向けてがんばっていきましょう。